Copyright © 2014 NTT DATA INTRAMART CORPORATION

↑Top

目次

- 改訂情報
- はじめに
  - 概要
  - 前提条件
    - バージョン
    - Java
    - Apache Ant
- アップデートツールのインストール
  - インストール手順
- アップデート
  - 事前作業
  - 設定ファイルの編集
  - アップデート
- 制限事項

改訂情報

変更年月日	変更内容
2014-04-01	初版
2015-04-01	第2版　下記を追加・変更しました ■ 「 アップデート 」 にテナント毎のライセンス数設定の説明を追加
2017-04-01	第3版　下記を追加・変更しました ■ 「 アップデートツールのインストール 」 のアップデートツールの取得方法についての説明を修正
2023-10-01	第4版　以下を追加・変更しました ■ 「 アップデート 」 に Java 17 でアップデートツールを実行する場合の説明を追加

はじめに

項目

- 概要
- 前提条件
  - バージョン
  - Java
  - Apache Ant

概要

本書では intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) から intra-mart Accel Platform 2014 Spring(Granada) へのアップデート手順について説明します。

前提条件

アップデートにあたっての前提条件は以下の通りです。
バージョンアップ時には、各前提条件を満たすように注意してください。

バージョン

- アップデート元は、intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) のテナント環境セットアップが終わっている状態とします。
- アップデートツールは、intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) の状態を、intra-mart Accel Platform 2014 Spring(Granada)へアップデートします。

> **注意**
>
> 本ドキュメントは intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) から intra-mart Accel Platform 2014 Spring(Granada) へのアップデートを対象としています。以下の場合については、「アップデートの適用」を参照してください。
>
> - intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) 以前のバージョンから intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) へのアップデート
> - intra-mart Accel Platform 2014 Spring(Granada) 以降のバージョンからのアップデート

注意

標準モジュールにカスタマイズを行っている場合、アップデートに失敗する可能性があります。
カスタマイズ内容を精査の上、以下を検討してください。

- 一旦標準に戻し、intra-mart Accel Platform 2014 Spring(Granada)上で再度カスタマイズする
- アップデートツールをカスタマイズする

上記検討には、コンサルティングサービスのご利用をお奨めします。

Java

本アップデートツールは Java を使用します。環境変数 PATH に JDK の Path を通している必要があります。

Apache Ant

本アップデートツールは Apache Ant で動作します。Ant のインストール、ならびに環境変数 ANT_HOME が設定されている必要があります。

コラム

URL（2014年4月現在）

- Apache Ant プロジェクトページ： http://ant.apache.org/
- リリースアーカイブ： http://archive.apache.org/dist/ant/binaries/

アップデートツールのインストール

インストール手順

1. アップデートツールを取得します。
   弊社サイトの プロダクトファイルダウンロード から、「iAP 806 -> iAP 807 アップデートツール」をダウンロードしてください。

2. ダウンロードした圧縮ファイル(update_tool.zip)を、任意のフォルダに展開します。
   Windows の場合は任意の ZIP 解凍ツールで解凍してください。
   Linux の場合は以下のコマンドで解凍することが可能です。

```
# unzip update_tool.zip
```

> **コラム**
>
> 本アップデートツールは、intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) と同じ環境へインストールしてご利用ください。

> **コラム**
>
> 以降、アップデートツールのルートディレクトリを [%UPDATE_TOOL_ROOT%] と表記します。

3. JDBCドライバを入手します。

> **注意**
> 接続先DBに応じて、適切なJDBCドライバを選択してください。

   - OracleのJDBCドライバは次のURLよりダウンロードできます。

     https://www.oracle.com

   - PostgreSQLのJDBCドライバは次のURLよりダウンロードできます。

     https://jdbc.postgresql.org

   - SQL ServerのJDBCドライバは次のURLよりダウンロードできます。

     https://www.microsoft.com/ja-jp

   - DB2のJDBCドライバは次のURLよりダウンロードできます。

     https://www.ibm.com/us-en/

4. JDBCドライバのダウンロード後、次のフォルダにコピーします。
   システムデータベース、テナントデータベースそれぞれのJDBCドライバを配置してください。

```
[%UPDATE_TOOL_ROOT%]/lib
```

アップデート

項目

- 事前作業
- 設定ファイルの編集
- アップデート

事前作業

- intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) 環境のフルバックアップ（データベース、設定ファイル、Storage 等）を行ってください。
- intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) 以前の場合、intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) へのバージョンアップを行ってください。
- 以降の説明において以下の表記を用います。
  - アップデート対象の intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) の Storage のルートを [%STORAGE_ROOT%] と表記します。

設定ファイルの編集

ご利用の環境に合わせて、以下のアップデートツール設定ファイル([%UPDATE_TOOL_ROOT%]/build.properties)を編集します。

設定項目	設定内容
tenant.id	intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) 環境のテナントIDを指定します。 基本的には「default」ですが、intra-mart WebPlatform からの移行として intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) 環境を構築している場合、アップデート元のログイングループIDを指定します。
system.database.class	intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) 環境のシステムデータベースのJDBCドライバクラス名を指定します。 Oracleの場合：oracle.jdbc.driver.OracleDriver SQLServerの場合： com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver PostgreSQLの場合：org.postgresql.Driver DB2の場合：com.ibm.db2.jcc.DB2Driver ※ご利用のDB環境に合わせて1つのみ指定してください。

設定項目	設定内容
system.database.url	intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) 環境のシステムデータベースの接続URLを指定します。 Oracleの場合：jdbc:oracle:thin:@localhost:1521:dbname SQLServerの場合：jdbc:sqlserver://localhost:1433;DatabaseName=dbname PostgreSQLの場合：jdbc:postgresql://localhost:5432/dbname DB2の場合：jdbc:db2://localhost:50000/dbname ※ご利用のDB環境に合わせてlocalhost, dbnameを変更し、1つのみ指定してください。
system.database.user	intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) 環境のシステムデータベースの接続ユーザを指定します。
system.database.password	intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) 環境のシステムデータベースの接続パスワードを指定します。
tenant.database.class	intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) 環境のテナントデータベースのJDBCドライバクラス名を指定します。 Oracleの場合：oracle.jdbc.driver.OracleDriver SQLServerの場合：com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver PostgreSQLの場合：org.postgresql.Driver DB2の場合：com.ibm.db2.jcc.DB2Driver ※ご利用のDB環境に合わせて1つのみ指定してください。
tenant.database.url	intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) 環境のテナントデータベースの接続URLを指定します。 Oracleの場合：jdbc:oracle:thin:@localhost:1521:dbname SQLServerの場合：jdbc:sqlserver://localhost:1433;DatabaseName=dbname PostgreSQLの場合：jdbc:postgresql://localhost:5432/dbname DB2の場合：jdbc:db2://localhost:50000/dbname ※ご利用のDB環境に合わせてlocalhost, dbnameを変更し、1つのみ指定してください。
tenant.database.user	intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) 環境のテナントデータベースの接続ユーザを指定します。
tenant.database.password	intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) 環境のテナントデータベースの接続パスワードを指定します。
storage.path	intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) 環境のストレージパスを指定します。
target.path	アップデートツールが書き込むことができる空のフォルダを用意し、そのパスを指定します。 ここで指定したフォルダにアップデートツールが IM-Workflow の設定ファイルを出力します。

注意

システムデータベース、テナントデータベースの接続先が同じである場合、
tenant.database.class, tenant.database.url, tenant.database.user,
tenant.database.password には
system.database.class, system.database.url, system.database.user,
system.database.password と同じ値を設定してください。

注意

設定ファイルに定義する値には、日本語を使用できません。

注意

設定ファイルに定義するパスの設定には、区切り文字に「/（スラッシュ）」のみを使用してください。

コラム

以降、target.path に指定したディレクトリを [%TARGET_ROOT%] と表記します

アップデート

1. intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) を停止してください。
2. ターミナル、またはコマンドプロンプトを起動し、カレントディレクトリが [%UPDATE_TOOL_ROOT%] になるよう移動します。
3. 次のコマンドを実行します。
   Java 17 で運用する場合
   - Windows

     ```
     > SET ANT_OPTS=--add-opens=java.xml/com.sun.org.apache.xerces.internal.jaxp=ALL-UNNAMED
     > ant
     ```

   - Linux

     ```
     # env ANT_OPTS=--add-opens=java.xml/com.sun.org.apache.xerces.internal.jaxp=ALL-UNNAMED ant
     ```

   Java 17 より前のバージョンで運用する場合

   ```
   ant
   ```

> **コラム**
>
> デバッグログを出力する場合、次のようにして実行してください。
>
> ```
> ant -d
> ```

「BUILD SUCCESSFUL」と表示されれば成功です。

4. IM-Juggling より intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) のプロジェクトを intra-mart Accel Platform 2014 Spring(Granada) にアップデートします。

5. 以下の2ファイルを IM-Juggling プロジェクトに移動してください。

```
* im-workflow-designer-config.xml

  [%TARGET_ROOT%]/WEB-INF/conf/im-workflow-designer-config.xml
      ↓↓↓↓↓↓
  [IM-Juggling プロジェクト]/conf/im-workflow-designer-config.xml

* im-workflow-system-config.xml

  [%TARGET_ROOT%]/WEB-INF/conf/im-workflow-system-config.xml
      ↓↓↓↓↓↓
  [IM-Juggling プロジェクト]/conf/im-workflow-system-config.xml
```

> **注意**
>
> IM-Workflowのシステム単位の設定「ノードアイコン保存ディレクトリ（node-icon-dir）」のみ、アップデート前の情報を引き継がず、デフォルト値（”products/im_workflow/icon/”）が適用されます。
> 理由は、 intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) から intra-mart Accel Platform 2014 Spring(Granada) へのアップデートに伴い、ノードアイコンの永続化先がパブリックストレージからシステムストレージへと大きく変更となったためです。
>
> ノードアイコン保存ディレクトリを変更して運用している、またはノードアイコンを標準のアイコンから変更して運用している場合は、ユーザモジュールによるアイコン配置を行う必要があります。
> 対応方法については「 IM-Workflow システム設定 」を参照してください。

6. war を作成します。
   - ストレージパスには intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) と同じパス([%STORAGE_ROOT%])を指定します。
   - データベースも同様に intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) と同じデータベースを指定します。

7. intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) の war をアンデプロイし、前の手順で作成した intra-mart Accel Platform 2014 Spring(Granada) の war をデプロイします。

8. システム管理者でログインします。
    - LDAP認証を使用している場合
      テナント環境セットアップを行う前に、「テナント管理」画面にてLDAP連携・設定情報を更新する必要があります。
      LDAP連携・設定情報の更新に関しては、「システム管理者操作ガイド」-「LDAP連携・設定」を参照してください。
    - IMBoxを使用している場合
      テナント環境セットアップを行う前に、「テナント管理」画面にてCassandra接続情報を更新する必要があります。
      その際にCassandra接続情報の初期値は、Cassandraサーバ接続設定（cassandra-config.xml）の値が設定されます。
      Cassandra接続情報の更新に関しては、「システム管理者操作ガイド」-「Apache Cassandra接続情報」を参照してください。

    > 注意
    > - Cassandra接続情報のクラスタ名には、<%CASSANDRA_HOME%/conf/cassandra.yaml>ファイルのクラスタ名と同じ値を設定してください。
    > - 更新の際には、必ずテスト接続を行い、以下のメッセージが表示されることを確認してください。
    >   - 接続認証設定なしの場合、「テスト接続に成功しましたが、指定したキースペースは既に存在しています。」
    >   - 接続認証設定ありの場合、「テスト接続に成功しました。」

9. テナント環境セットアップを行います。
10. テナント環境セットアップの完了後、以下について設定します。
    - IM-ContentsSearchを使用している場合
      「Solr接続設定」画面で intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) で利用していたSolrサーバ接続設定を登録し、「テナント管理」画面にてSolr接続情報を更新する必要があります。
      「Solr接続設定 新規登録」画面の初期値は、Solrサーバ接続設定（solr-config.xml）の値が設定されます。
      Solr接続情報の更新に関しては、「システム管理者操作ガイド」-「Apache Solr接続情報」を参照してください。
11. テナント毎に割り当てるライセンス数を設定します。
    - intra-mart Accel Platform 2014 Spring(Granada) 以降ではバーチャルテナント機能の追加にあたって
      利用するテナントごとにアカウントライセンス、アプリケーションライセンスの上限数を設定をする必要があります。
      「テナント管理」画面のライセンス設定より、利用中のテナントに対してライセンス上限数を設定してください。
      操作の詳細は「システム管理者操作ガイド」-「ライセンス設定」を参照してください。

注意

設定を行わない場合、上限数 「0」が割り当てられてしまうため、必ず行う必要があります。

以上で intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) から intra-mart Accel Platform 2014 Spring(Granada) へのアップデートは完了です。

制限事項

アップデート（2013 Winter から 2014 Spring）にあたっての制限事項はリリースノートに記載されています。
バージョンアップ時には、必ずすべての制限事項を確認してください。